

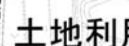
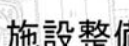
しあわせなまちをデザインするワークショップ		
藤江地区ワークショップ報告書		
地区の概要	藤江地区は本町の一番南部に位置し、人口は町全体の約15%を占め、二番目に人口の少ない地区である。。住宅地は、JR武豊線から丘陵地にかけて発達しており、北部に土地区画整理事業により整備された住宅地が広がっている。南部でJR武豊線から東側(衣浦湾側)に東浦工業団地が整備されており、本町の工業拠点の一つとなっている。(都)山ノ手線以西や、(都)衣浦西部線以东には優良農地が広がっている。	
分類	現況と課題	課題解決策
土地利用	旧道付近に住む若い人たちは、道路が整備された郊外部に出ていく傾向がある。そのための受け皿は必要だ。	今の市街地に近い場所に受け皿が必要だ。(三丁公園東側の市街化調整区域や、ふじが丘の西側、藤江小学校西側など)
交通・道路	(都)藤江線の早期の全線開通 (都)藤江線は(都)山ノ手線から(都)大府半田線まで整備され、地区の幹線道路として利用が開始されました。今後、早期に366バイパス((都)衣浦西部線)まで全線開通が要望されている。 藤江線が一部開通したことによって藤江線と国道366号および旧道との交差点が危険になった。	・(都)藤江線の国道366号から(都)衣浦西部線までの区間の早期完成を要望し続ける。(交通量や狭い道への車の交通などは(都)藤江線の国道366号から(都)衣浦西部線(366号バイパス)までの区間の完成でほぼ解決すると思われる。早期完成を望む。) 【整備されるまでの現状の道路の解決策として】 ・(都)大府半田線(国道366号)と(都)藤江線の交差点に歩行者が安全に通行できる横断歩道をつけるとよい。 ・また、そこから東浦駅へ行くのに(都)藤江線の計画路線に十分な歩道を整備してもらい、東方向に武豊線まで歩き、そこから北方向の東浦駅まで武豊線に並行する道路を新設して、安全に東浦駅に行けるとよい。(都)藤江線完成はかなり時間がかかる。) ・通学時間帯(主に中学生)荒子団地からスーパーコノミヤまでの旧道の全区間は一方通行などの規制をしたい。(専正寺前の(都)大府半田線から武豊線までの現道は現在、通学時間帯で一方通行にしている。) ・開通した藤江線と国道366号及び旧道の交差点に注意喚起等の安全対策を図る。
	「東浦駅周辺や三丁公園付近の生活道路の道の狭さや、自転車道がないことなどの課題」 東浦駅前スーパー周辺が夕方4時から6時頃まで渋滞がひどいこと、三丁公園への避難路にもなる生活道路の狭さなど	【東浦駅周辺】 ・スーパー周辺の道路についてはハード面の信号機等の設置は難しいためガードマンによる誘導などのソフト面やスーパーの駐車場のアクセスルートを分散するなどの方策を図る。 【三丁公園周辺】 ・三丁公園の避難路はもともと課題に挙がっていた道幅の狭い道路の拡幅は難しい、とした。そして、その他のルートを検討した結果、(都)藤江線からふじが丘団地に入る幹線道路の1本東側の区画道路から入る道路を避難路と考えた。これらの2本の道路で避難者を三丁公園に受け入れることとした。
	藤江地区内を便利にする公共交通機関のルート	・藤江地区内専用の『「う・ら・ら」のような公共の交通機関』があったとして、藤江の主要な箇所(スーパー、コミュニティセンター、クリニック、老人憩いの家、団地など多くの人が乗降する箇所)を通り、かつ、う・ら・らのバス停ともつながるようなルートを整備する。
公園・緑地	「公園についての課題」に関して	・ふじが丘の公園などに時計、トイレを置きたい。管理等の問題があるが要望を続ける。
下河川・水道	半田市との境の(都)大府半田線の交差点(藤江交差点)は豪雨時は雨水及び、土砂がたまる。	・豪雨時の排水処理施設の改善が必要(藤江交差点) 雨水、土砂がたまった場合は県建設事務所に連絡をして処置してもらう。
都市環境・その他	災害避難所の整備。福祉避難所。津波危険地区から避難経路としての安全な道路がない。	・工場の屋上などを避難所にしてもらう協定を結ぶとよい。 ・ひがしうらの家付近の「トイボックス」が福祉避難所になっている。 ・須賀川北部の人は三丁公園まで遠く、避難しにくいとため、一時避難所として安徳寺や旧農協を使用したら有効な避難ができる。
	だんつく、藤江神社などの文化財を利用した町おこしを考える	・だんつくをもっとPRすることは必要だ。今後もPRしていく。 ・知多四国八十八ヶ所の道案内にもなっていたお地藏さんを復活して「お地藏さんめぐり」の道を整備して、藤江をPRする。
	・生活利便施設の調査結果について ・総合病院、中学校、大きな公園の評価が低かった。 ・スーパーなど商業施設が少し評価が低かった。	・総合病院がないが特に問題ではない。普段はクリニックで問題なし。 ・中学校が石浜地区の北の端にあり、遠い。 ・「大きな公園」は三丁公園ができるまで、評価が低いと完成すれば評価が高くなると推測する。 ・その他の商業施設など特に問題ないとのことだった。
	対策を長期・中期・短期に分類すると右の意見となった。	今回のワークショップとして夢も含めて考えて以下のようにまとめた。 長期：道路についてで話題に挙がっている(都)藤江線の全線開通について 中期：『藤江地区「う・ら・ら」』(自主運営タクシーなども含めて)の運行などについて 短期：旧道の時間帯通行制限と工場との避難所の協定について

地区の目標 (夢、プラン)	「歴史の継承 だんつくの里 藤江 ～人・地域のつながるまち～」
------------------	---------------------------------

整 備 方 針		整 備 手 法	
土地利用の方針		計画の実現に向けた整備手法と概算事業費	
①既成市街地（郷中など）からの住み替えの受け皿として住宅地の準備を検討する。		①住宅需要を考えて住宅地計画を検討する。（現状では住宅需要の把握は今後の課題）	
施設整備の方針		施設整備に実現に向けた整備手法と概算事業費	
道路 ②（都）藤江線の早期の全線開通 そして整備されるまでの現状の道路の解決策として ・（都）大府半田線（国道３６６号）と（都）藤江線の交差点に歩行者が安全に通行できる横断歩道の設置を促進する。 ・渡船場線（藤江２１０号）から東浦駅へつながる道路の整備を図る。（安全に東浦駅に到着する。） ・通学時間帯（主に中学生）荒子団地からスーパーコノミヤまでの旧道の全区間は一方通行などの規制を図る。 ・藤江線と国道366号及び旧道の交差点で注意喚起施設の設置などの交通安全対策を促進する。 ③藤江の主要な箇所（スーパー、コミュニティセンター、クリニック、老人憩いの家団地など）を通り、かつ、「う・ら・ら」のバス停ともつながるような交通手段の整備を促進する。		②-1: (都)藤江線の整備費【整備費： 40億円 】延長600m 【(都)藤江線が整備されるまでの現状の道路の整備手法】 ②-2: ・横断歩道の整備【整備費： 200万円 】2本 ・国道366号の路側に歩行者・自転車通行帯(グリーンベルト)を整備【整備費： 1億円 】延長1.5km 両側 -3: 渡船場線(藤江210号)から東浦駅へつながる道路を整備(武豊線に並行する道路の整備) 延長400m 【整備費： 2,000万円 】 -4: 通学時間帯荒子団地からスーパーコノミヤまでの旧道の全区間は一方通行などの規制を検討する。(藤江地区、中学校関係者の協力) -5: 交差点に押しボタン信号などの交通安全対策を図る。 ③藤江地区での自主運営公共交通手段の実現の検討を行う。「う・ら・ら」との連携については別途関係機関との協議を進める。	
施設 ④災害避難所、要援護者の避難所の整備を促進する。 ○コンビニを藤江地区の中心地に設置を図る。 （生活利便施設のアンケートから、コンビニは現在、東浦駅と南側の荒子団地にある。そして今度、守宮橋周辺にできる予定だが、いずれも藤江地区の中心から外れており、中心部（藤江公民館付近）にあると便利だ。）		④-1: 工場の屋上などを避難所にしてもらう協定を進める。 -2: 協定締結済みの「ひがしうらの家」および「トイボックス」が要援護者の避難施設であるので活用する。 -3: 須賀川北部の人は三丁公園等に避難しにくいため一時避難所に安徳寺や旧農協を使用できるよう、協力の依頼を行う。 -4: 三丁公園(避難所)への道幅の狭い避難路に加えて、もう1本の避難路の整備を推進する。 -5: 藤江線高架が整備されるとき、この辺りでの高所は重要であるため高架部に避難所を併設する。(藤江線の整備費に計上)	
公園・緑地 ○公園に時計、トイレの設置を促進する。		○公園に時計、トイレの設置を促進する。管理等の問題があるが要望を続ける。	
河川・下水道 ⑤豪雨時の排水処理施設の改善が必要（藤江交差点）		⑤排水処理施設の改善、整備	
建築物等に関する事項		建築物等の規制・誘導策	
建築物の用途制限	① 戸建て住宅地としての建物の用途の制限を行う。	① 用途地域の指定	
建築物の容積率及び建ぺい率の最高限度	① 良好な住環境形成のため、低い建ぺい率・容積率の指定を行う。	① 用途地域の指定	
建築物の敷地面積の最低限度	① 良好な住環境形成のため、敷地面積の最低限度を200㎡とする。	① 地区計画の指定	
建築物の高さの最高限度	① 建物の高さを2階建てまでとする。	① 地区計画の指定	
その他当該地区の整備・開発及び保全に関する方針		その他当該地区の整備手法と概算事業費	
⑥だんつく、藤江神社、藤江塩田跡、衣ヶ浦藤江越し跡などの文化財を利用したまちおこしを進める。		⑥-1: だんつくのPRを推進する。 -2: 知多四国八十八ヶ所の道案内にもなっていたお地藏さんを復活して「お地藏さんめぐり」の道を整備して、藤江をPRする。（現在、数か所残っているお地藏さんの保全から始める。）	

藤江地区 整備方針図

凡例

-  計画区域
-  土地利用
-  住宅系土地利用
-  施設整備
-  広域幹線道路の整備
-  地区内の中心道路の整備
-  道路の交通安全整備
-  う・ら・らのルート
-  藤江地区での自主運営公共交通手段のルート
(藤江の主要な個所)
-  災害避難所の整備
-  避難路の整備
-  排水処理施設の改善
- その他整備・開発及び保全**
 -  だんつくを利用したまちおこし
 -  「お地蔵さんめぐり」を利用したまちおこし
(現存するお地蔵さん)

0 250 500 1,000メートル